

中部山岳国立公園

立山ルート緑化研究委員会年報

(令和6年度)

立山ルート緑化研究委員会

中部山岳国立公園 立山ルート緑化研究委員会年報

令和6年度

目 次

I 専門委員研究報告

立山ルートにおける外来植物アライドツメクサの拡散経路の推定……………	1
立山ルート緑化研究委員会 委員長 太田 道人	
立山ルート緑化研究委員会 専門委員 山下 寿之	
立山ルート緑化研究委員会 専門委員 大宮 徹	
立山ルート緑化研究委員会 専門委員 米澤 義則	
(公財)花と緑の銀行中央植物園 吉田めぐみ	
立山ルート緑化研究委員会 事務局 城 賀津樹	

II 令和6年度アルペンルート沿線施設外来植物除去報告……………事務局 8

III 令和6年度立山ルート緑化研究委員会事業報告……………事務局 12

立山ルートにおける外来植物アライドツメクサの拡散経路の推定

立山ルート緑化研究委員会 委員長 太田 道人
 立山ルート緑化研究委員会 専門委員 山下 寿之
 立山ルート緑化研究委員会 専門委員 大宮 徹
 立山ルート緑化研究委員会 専門委員 米澤 義則
 (公財)花と緑の銀行中央植物園 吉田めぐみ
 立山ルート緑化研究委員会 事務局 城 賀津樹

はじめに

アライドツメクサ(図1)は、ヨーロッパと北アジア原産の小型の二年草で、日本国内では本州以北に帰化している。花は4枚のがく片を水平に開き、花弁はなく、夏に壺のような形の実をつけ、大量の種子を散らす。富山県内では、1988年に富山市内で初めて記録された。

立山ルート沿線では2007年に国見第一駐車場で発見された(立山外来植物除去対策検討会 2011)後、同駐車場を中心として、ルート沿線の駐車場等へ広がり続けている(立山植生研究会 2025)。山下ら(2024)は、弘法から室堂平までの46定点における出現状況を年表形式に表して、アライドツメクサが同駐車場から複数の定点へと拡散しつつある状況を表現した。

また、2013年以降、同駐車場下流の側溝内にも生育していることが確認されており(太田・山下 2014, 立山植生研究会 2025)、2024年には、直径15cm前後に成長したアライドツメクサの集合体が、駐車場に近接している側溝、長さ約400mにわたって連続的に生育する状態になっている。このことは、道路側溝内はアライドツメクサの増殖に好適な環境であることを示している。

アライドツメクサの立山ルート沿線および室堂平園地への拡散経路に関しては、車道の側溝等をたどって移動している可能性と、駐車場から駐車場へと車等に付着して移動している可能性の両方が考えられるが、定点間の路面および側溝等全体を調査したものがないため、推定は困難であった。

一方、黒部谷側においては、太田ら(太田・山下他 2014)が黒部ダムの遊覧船乗り場への歩道上で確認し、また、太田が2020年9月3日にダム堤天端左端部で写真を撮影しているが、このエリア全体の現状は不明であった。

そこで今回は、室堂平側においては、室堂ターミナル周辺から天狗平の立山高原ホテルまでの全ての路面と側溝内を切れ目なく精査し、黒部谷側においては、黒部ダムとその周辺および黒部平と大観峰を調査することにより、過去の全記録と合わせた生育地点図を作成した上で、拡散経路の推定と今後の防除対策を検討した。



図1. アライドツメクサの花(果実期)

花の直径は約5mmで、花弁はないことが多い。果期には4枚のがく片が水平に開く。立山では、アスファルト舗装の割れ目やコンクリートの隙間、道路の側溝内などに生える。

調査方法

立山におけるアライドツメクサの生育状況に関する調査を行った日／期間、場所／範囲、調査者、掲載文献の一覧を表1に示す。立山外来植物除去対策検討会（2011）および立山植生研究会（2025）で行われた現地調査の内容は、各定点内における植生調査であり、2023年8月22日以降の現地調査は、上記定点には含まれていない道路や施設等において、アライドツメクサのみの探索を目的としたものである。

表1. 立山におけるアライドツメクサの生育状況に関する調査

調査内容	調査日／ 期間	調査場所／範囲	調査者	掲載文献
植生調査 GPS写真記録	2007～ 2009年	弘法から室堂平間に設定した46定点	松久・太田・ 山下・大宮	立山外来植物除去 対策検討会(2011)
	2010～ 2024年	弘法から室堂平間に設定した46定点 弥陀ヶ原遊歩道5定点（2013～）	太田・山下・ 吉田	立山植生研究会 (2025)
ルート全面のア ライドツメクサ 探索 GPS写真記録	2023年 8月22日	国見第一駐車場下流側側溝内	太田	
	2024年 7月23日	同上	太田	
	8月9日	国見第一駐車場下流側側溝内 排水先の自然植生内	太田	
	8月14日	国見第一駐車場法面下の自然植生との境界 部	太田	
	8月23日	天狗平高原ホテルから国見第一駐車場間の 全路面および全側溝内	太田	
	9月7日	弥陀ヶ原駐車場とその周辺側溝内	太田	
	9月11日	国見第一駐車場間から室堂ターミナル駐車 場間の全路面および全側溝内 黒部ダム堤天端と兩岸の施設周辺、黒部平 広場・植物園、大観峰駅周囲	太田・米澤・ 城	

全調査を通して、位置情報を記録するためにGARMIN社製ハンディGPS eTrex20またはeTrex30を携帯し、アライドツメクサを発見した際には、被写体から1m以内に近づいて、デジタル一眼レフカメラで撮影した。アライドツメクサが近接して生育している場合には、約3mごとに撮影した。JPG写真ファイルへの位置情報の付加には、フリーソフトJpeg GPX Mergerを使用した。生育地点図の作図には、DAN杉本作成のフリーソフト カシミール3D（デジカメプラグイン実装）を使用し、アライドツメクサの写った画像ファイル群を地図上にドロップし、撮影地点に表示されたカメラ型または白四角アイコンを、それらとほぼ同じ大きさの十字でぬりつぶしたものを完成図とした。

結果

アライドツメクサの生育地拡大状況を捉えるため、2007年の発見時からの期間を変えた3枚の生育地点図を作成した。2007～2010年のものを図2に、2007～2020年のものを図3に、2007～2024年のものを図4に示した。

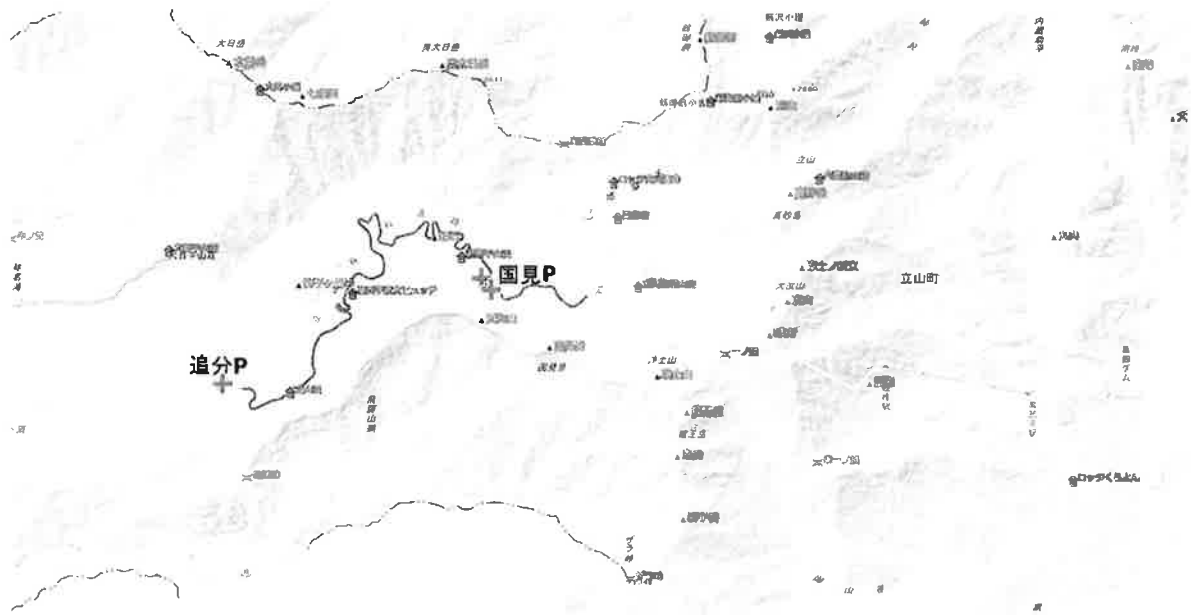


図2. アライドツメクサ生育地点図 (2007～2010年)
2010年までの定点調査による確認地点をプロット (+) したものの。

図2からは、調査定点（立山外来植物除去対策検討会 2011）の中では、2010年時点では追分駐車場（松尾峠入口）と国見第一駐車場でのみ確認されていたことが分かる。

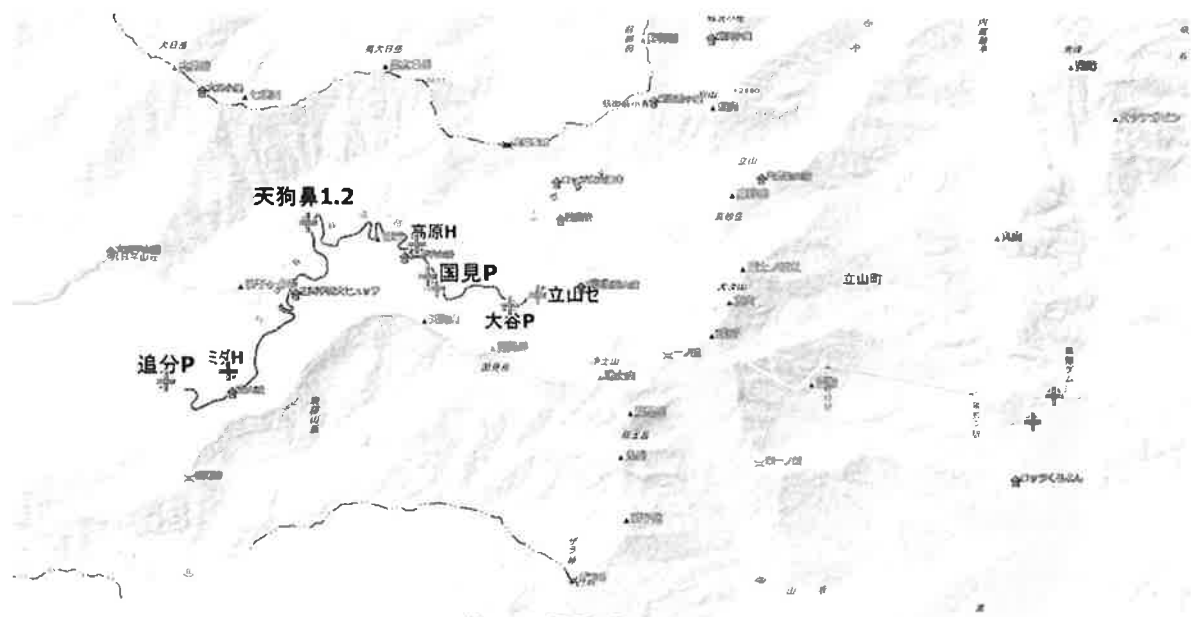


図3. アライドツメクサ生育地点図 (2007～2020年)
2020年までの定点調査による確認地点をプロット (+) したものの。

図3は、図2から10年経過した時点のものである。室堂平側の調査定点では、新たに、弥陀ヶ原ホテル（ホテル裏側の旧燃料倉庫跡地）、天狗鼻第一駐車場（谷側の擁壁下）・第二駐車場路面、天狗平高原ホテル（玄関前広場）、大谷待避所（路側帯）、立山センター（周囲の路面）で確認された。

黒部谷側では、黒部ダム左岸と遊覧船乗り場への歩道で確認された。

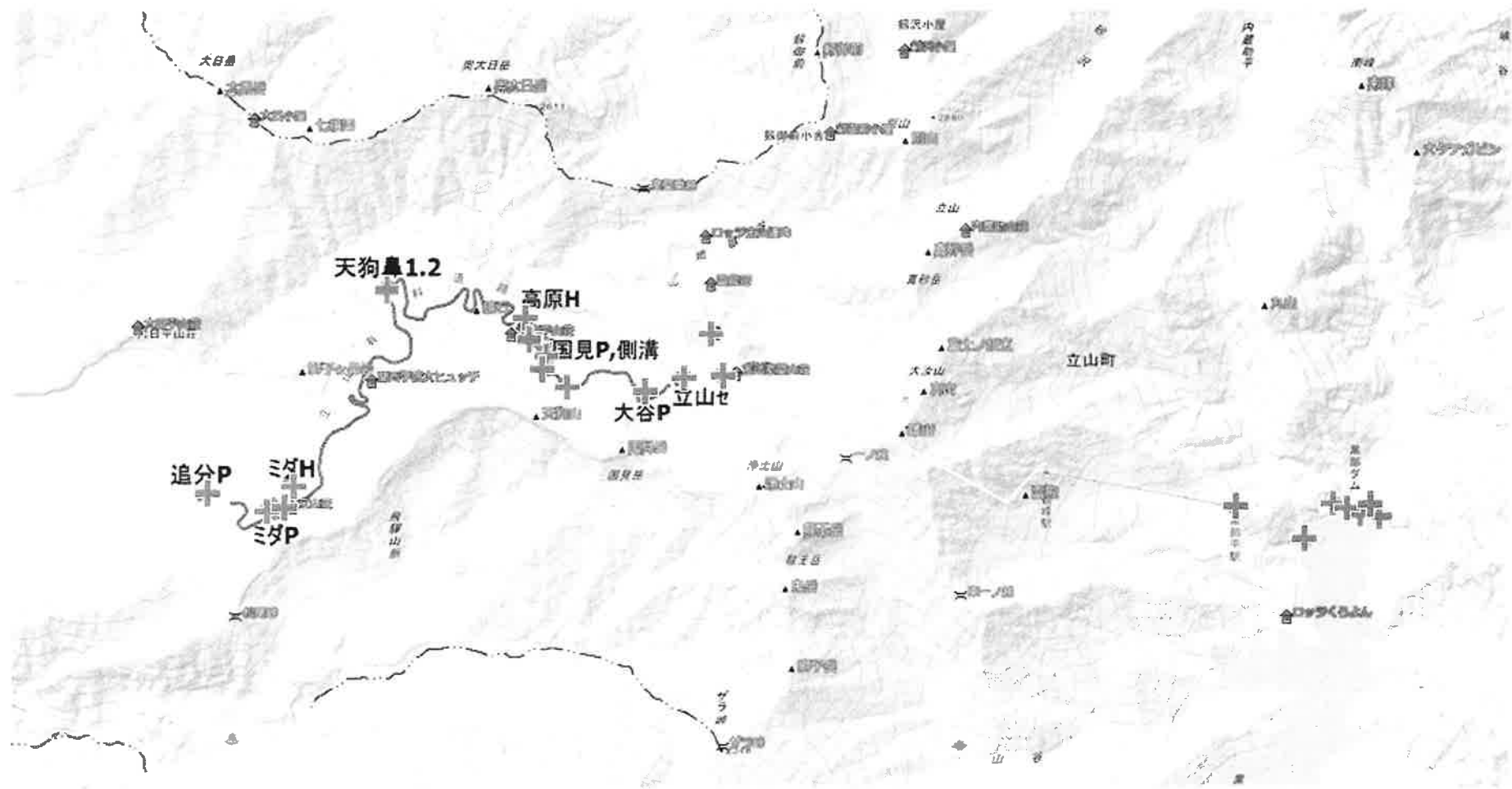


図4. アライドツメクサ生育地点図 (2007～2024年)

これまでに得られた全情報を書き込んだもの。西側の天狗高原ホテルから室堂平を経て東側の黒部ダムまでの間で、+マークが打たれていない場所には、アライドツメクサが生育していないことを確認済み。

図4は、図3から4年経過した時点のものである。2023から2024年の調査の結果、天狗平高原ホテルから室堂平間においては、定点以外の場所（ただし、国見第一駐車場側溝を除く）にはアライドツメクサは生育していないことが確認された。したがって、図4のこの範囲でプロットのない場所には、アライドツメクサが生育していないことを意味する。

新たに確認された地点の状況を示す。

弥陀ヶ原駐車場

2つある進入路のいずれも舗装が途切れて砂利敷きになる地点周辺に、アライドツメクサが生育している。また、駐車場進入路より下流側の車道両側の側溝のうち、立山荘側のごく一部で、アライドツメクサが生育しはじめていた。

国見第一駐車場に近接する側溝

大駐車場の路面全体に、アライドツメクサの小集合体が点在する。アスファルトに入ったクラックや車道との境界部目地で見つけやすい。

特記すべきは、駐車場の排水が直接入ることのない山側の側溝内の側壁および砂泥のたまった底面に、10～15 cm程度の集合体が連続的に生育していることで、時に密生状態になっていることもあった。面白いことに、駐車場上部端とほぼ同じ標高の山側にある排水柵No.45（図6）を境に、これより上流側にはアライドツメクサは全く生育していなかったことである。

なお、側溝を流れ下った雨水は全て近くの自然植生内へ排水されている。排水が落ちる植生内2カ所を探索したが、アライドツメクサは見つからなかった。



図6. 国見第一駐車場上端付近の山側にある排水柵No.45

○は、アライドツメクサの集合体位置。



図5. 国見第一駐車場（ヘリポート）に近接する側溝

手前の側溝底面および側面目地に集合体が繁茂している。

室堂平

2021年以降、立山センターの入口から施設の裏へと続く未舗装地（関係者の駐車スペース）に小集合体がやや密に生育する状態が続いている。

室堂平全体では、2021年から2024年までの4年間で、次の5地点で新たに生育が確認された。
 1. 室堂ターミナル駐車場路面の目地（小集合体が少数）、2. 立山センター入口の遊歩道面（小集合体が少数）、3. 室堂山荘方面へと向かう直線歩道脇のベンチ下（小集合体が少数）、4. ミクリガ池東岸の歩道面（小集合体が少数）、以上立山植生研究会（2025）。5. 立山自然保護センター玄関前の渡り廊下の柵下（小集合体が線状に生育）。

なお、これら以外の遊歩道および室堂ターミナル屋上から続く広場にはアライドツメクサは生育してなかった。

大観峰

アライドツメクサの生育は確認されなかった。

黒部平

駅から広場へ出る扉の前で複数の小集合体が確認された。これ以外の園地、植物園、石積み階段、施設周囲には生育していなかった。

黒部ダム周辺

ダム堤の天端とダムサイトおよび左岸の遊覧船乗り場までの歩道に、アライドツメクサの小集合体が断続的に生育していた。右岸のダム管理棟入口の駐車スペースにはやや多く生育していた。集合体の大きさは1～3cm程度のものがほとんどで、ダム堤上では、集合体は10～30m程度離れて点在している状態であった。また、各施設の側溝内には生育していなかった。



図7. 資材を積載して黒部ダムから黒部湖駅前を経て左岸の船着き場へ向かうトラック

考察

アライドツメクサが2007年に国見第一駐車場で、2008年に追分駐車場松尾峠入口で相次いで発見されて以来、生育地点数が増加している事実から、室堂平側では、これらの場所から室堂平の駐車場や天狗平高原ホテル前広場、弥陀ヶ原駐車場入口などへと拡散したものと推察される。

アライドツメクサの立山ルート上の初期侵入地は、近接した側溝内で大繁殖している地点が国見第一駐車場のみであることから、この駐車場にはほぼ間違いない。ここに頻繁に運び込まれるヘリコプター荷揚げ品や工事資材に付着／混入していたものが路面のクラックに定着したものが始まりだと考えられる。なお、駐車場の雨水が流下していない側の側溝内にもアライドツメクサが広く生育するのは、ヘリコプターの風圧で種子が周囲に吹き飛ばされているためだと推定される。

室堂ターミナル周辺から天狗平の立山高原ホテル間におけるアライドツメクサの拡散経路については、今回調査で定点以外（国見第一駐車場に近接する側溝内を除く）には全く生育していないことが明らかになったことから、本種は駐車場から駐車場へと移動している可能性が高まった。そのような動きをするものは車と乗車している者以外にはない。しかも、国見第一駐車場とその他の駐車場間を行き来するものは、路線バスや観光バス、一般登山者、観光客ではなく、主として公用車や工事車両等の関係者に限られる。したがって、この区間におけるアライドツメクサの拡散は、関係者の車や靴底に付着し

て移動したものによると考えざるを得ない。

また、2021年以後には、室堂平の遊歩道上にもアライドツメクサが生育するようになったが、その原因は人の移動とは考えにくく、時折走行する運搬車やトラックである可能性が指摘される。このように、関係者が外来植物を拡散させている可能性が高いことは、これまでの外来植物防除対策では軽視されてきた部分である。

立山の外来植物防除を目的として、入山者に対して外来植物の持ち込み防止を呼びかけることよりも先に、関係者の外来植物拡散防止に対する意識向上と実効性のある行動が求められる。

一方、黒部谷側のアライドツメクサの生育状況は、黒部ダムにはやや多かったが、黒部平には1小集団のみで、大観峰には生育無しだったことから、アライドツメクサの侵入は、大町市側から関電トンネルで直接入り込む工事車両等が運び入れた可能性が大であり、室堂平側のものとは関連が薄いと考えられる。

今回の報告は、小型で見落とされやすい外来植物であっても、継続的なモニタリング調査によって侵入の早い段階で気づくことができたことに加え、その拡散状況の追跡から拡散経路の推定まで可能となった稀な例である。

アライドツメクサの今後の生育地拡大を阻止するためには、現生育地点の集合体を重点的に除去する必要がある。また、自然植生に流出し続けているアライドツメクサ等の外来植物の種子は、大量の雨水や雪解け水とともに称名溪谷に流れ込み、称名滝を落下して称名川や常願寺川に拡散していくおそれもある。この危険性を減らすための対策を進めることも急務である。

引用文献

- 太田道人・山下寿之. 2014. 第7章外来植物調査. 立山植生モニタリング第Ⅲ期調査成果報告書. 143-160.
- 太田道人・山下寿之・大宮徹・松久卓・城賀津樹. 2014. 黒部ダム周辺における外来植物の消長について. 中部山岳国立公園立山ルート緑化研究委員会年報（平成25年度）VOL.15.
- 立山外来植物除去対策検討会. 2011. 立山外来植物除去対策報告書. 172pp. 富山県.
- 立山植生研究会. 2025. 令和6年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 108pp. 立山植生研究会.
- 山下寿之・太田道人・吉田めぐみ. 2024. 立山アルペンルート外来植物15年間の変化とこれからの課題. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和5年度）VOL.22. 立山ルート緑化研究委員会.

令和6年度アルペンルート沿線施設外来植物除去報告

当委員会事務局

以下は、令和6年度に実施された、当委員会会員各施設などにおける外来植物除去の状況を取りまとめたものである。

〔富山県立山自然保護センター〕

- ・実施日 令和6年6月～9月延べ40回
- ・参加人員 延べ40人
- ・場所 室堂平

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	219株
イタドリ	3,405株
オオイタドリ	10株
スズメノカタビラ	160株
シロツメクサ	1,745株
タチオランダゲンゲ	1,220株
オオバコ	136株
スギナ	373株
フランスギク	9株
ヨモギ	550株
フキ	20株
ゴマナ	1,111株
その他	267株
計	9,225株

〔NPO法人富山県自然保護協会〕

- ・実施日 令和6年7月27日、8月25日
- ・参加人員 60人
- ・場所 弥陀ヶ原～天狗平

種 別	数 量
イタドリ	2,047株
スギナ	219株
フキ	125株
ゴマナ	314株
計	2,705株

〔富山県自然保護課(山岳環境保全ボランティア)〕

- ・実施日 令和6年8月10日、25日、
9月7日
- ・参加人員 168人
- ・場所 弥陀ヶ原～室堂平

種 別	数 量
イタドリ	6,964株
シロツメクサ	1,313株
ヨモギ	421株
フキ	349株
ゴマナ	1,746株
その他	493株
計	11,286株

〔立山三社・富山西ロータリークラブ協働〕

- ・実施日 令和6年8月2日
- ・参加人員 92人
- ・場所 弥陀ヶ原・室堂平

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	42株
イタドリ	3,807株
オオイタドリ	640株
シロツメクサ	800株
オオバコ	300株
ギンギシ	100株
スギナ	100株
ヨモギ	850株
フキ	200株
計	6,839株

[富山県道路公社]

- ・実施日 令和6年5～7月延べ19日
- ・場所 弘法～室堂

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	2,216株
計	2,216株

[NPO法人立山自然保護ネットワーク]

- ・実施日 令和6年7月～10月延べ27回
 - ・参加人員 延べ112人
 - ・場所 弘法～弥陀ヶ原～天狗平～室堂平
- ※その他（称名滝・美女平・ブナ坂他）でも実施

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	23株
イタドリ	4,674株
オオイタドリ	1,521株
スズメノカタビラ	238株
シロツメクサ	3,398株
オオバコ	4,919株
ギンギシ	200株
スギナ	18株
フランスギク	3株
オノエヤナギ	104株
ヨモギ	1,280株
フキ	249株
ススキ	778株
ゴマナ	10,852株
その他	3,520株
計	31,777株

[ナチュラリストいちよん会]

- ・実施日 令和6年9月8日、10月6日
- ・参加人員 12人
- ・場所 弥陀ヶ原・室堂平

種 別	数 量
イタドリ	1,367株
シロツメクサ	30株
オオバコ	20株
スギナ	3,134株
ゴマナ	121株
その他	260株
計	4,932株

[立山町観光協会（りんどう会）]

- ・実施日 令和6年7月9日、22日
8月3日

- ・参加人員 延べ46人
- ・場所 弥陀ヶ原～一ノ谷～室堂平

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	265株
イタドリ	12,921株
シロツメクサ	3,420株
タチオランダゲンゲ	4,150株
オオバコ	40株
オノエヤナギ	18株
ヨモギ	5,937株
フキ	15株
ゴマナ	20株
計	26,786株

[富山県ナチュラリスト協会]

- ・実施日 令和6年7月7日、28日、
9月1日

- ・参加人員 延べ53人
- ・場所 弥陀ヶ原・室堂平

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	523株
イタドリ	1,404株
オオイタドリ	7株
シロツメクサ	219株
オオバコ	433株
ギンギシ	32株
スギナ	45株
オノエヤナギ	49株
ヨモギ	498株
フキ	7株
ススキ	26株
ゴマナ	682株
その他	993株
計	4,918株

[立山黒部環境保全協会立山支部]

- ・実施日 令和6年8月23日
- ・参加人員 10人
- ・場所 室堂平

種 別	数 量
イタドリ	1,805株
シロツメクサ	100株
計	1,905株

[富山県立大学]

- ・実施日 令和6年7月13日
- ・参加人員 40人
- ・場所 弥陀ヶ原

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	43株
イタドリ	292株
オオイタドリ	875株
シロツメクサ	210株
オオバコ	1,606株
その他	10株
計	3,036株

[富山信用金庫]

- ・実施日 令和6年8月24日
- ・参加人員 59人
- ・場所 弥陀ヶ原

種 別	数 量
イタドリ	506株
オオイタドリ	237株
シロツメクサ	967株
タチオランダゲンゲ	3株
オオバコ	648株
ギンギシ	150株
スギナ	6株
オノエヤナギ	8株
フキ	26株
ススキ	75株
ゴマナ	1,356株
その他	186株
計	4,168株

[ナチュラリストにいさん会]

- ・実施日 令和6年6月25日
- ・参加人員 11人
- ・場所 弥陀ヶ原

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	25株
イタドリ	2,060株
オオイタドリ	658株
シロツメクサ	120株
オオバコ	25株
スギナ	1,350株
オノエヤナギ	6株
ヨモギ	180株
フキ	540株
ゴマナ	1,283株
計	6,247株

[立山ロータリークラブ]

- ・実施日 令和6年9月8日
- ・参加人員 13人
- ・場所 室堂平

種 別	数 量
イタドリ	1,315株
シロツメクサ	40株
ゴマナ	327株
計	1,682株

[連合富山 富山地域協議会]

- ・実施日 令和6年7月27日
- ・参加人員 31人
- ・場所 室堂平

種 別	数 量
イタドリ	4,300株
ヨモギ	2,060株
計	6,360株

[品川グループ・損害保険ジャパン]

- ・実施日 令和6年7月15日
- ・参加人員 91人
- ・場所 弥陀ヶ原

種 別	数 量
セイヨウタンポポ	15株
イタドリ	651株
オオイタドリ	89株
シロツメクサ	1,139株
オオバコ	1,442株
ギシギシ	38株
スギナ	874株
オノエヤナギ	147株
ヨモギ	14株
フキ	256株
ゴマナ	3,226株
その他	50株
計	7,941株

[外来植物種類別除去数の推移（弘法～室堂平間）]

（単位：株又は本）

種 別	除 去 数						
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
セイヨウタンポポ	2,902	8,534	6,566	1,880	5,730	6,273	3,371
フランスギク	151	43	32	124	12	40	12
ギシギシ	426	589	391	2,421	496	1,537	520
シロツメクサ	11,565	8,722	15,095	6,194	16,249	7,618	13,501
オオバコ	4,451	5,146	6,797	6,608	12,106	7,222	9,569
イタドリ	42,137	32,656	33,311	38,252	38,832	45,767	47,518
スギナ	12,127	10,286	5,307	7,360	6,251	2,934	6,119
スズメノカタビラ	250	47	45	572	436	1,299	398
その他	22,447	16,581	25,234	45,956	37,868	49,720	51,015
計	96,456	82,604	92,778	109,367	117,980	122,410	132,023
延べ参加人員（人）	437	476	296	480	466	642	838

※弘法より下（標高）は除外した。

※延べ参加人員は確認できた範囲で記載した。

令和6年度立山ルート緑化研究委員会事業報告

当委員会事務局

1. 定期総会

日 時：令和6年7月1日（月） 14：00～14：40

場 所：立山黒部貫光(株)役員会議室

出席者：〔委 員 長〕 太田道人

〔副委員長〕 大宮徹

〔委 員〕（富山森林管理署長）鈴木修，（環境省立山管理官事務所管理官）中森健太，（富山県道路公社事務局長）岡野博司，（らいちょう温泉雷鳥荘）林守人，（TKT常務取締役）大谷真一，（TKK取締役技術環境部長）杉林義宏，（TKK技術環境部環境保全課長）山本嘉宏

〔専門委員〕 米澤義則

〔事 務 局〕 城賀津樹，白石泰弘

議 事

1) 第Ⅰ号議案 令和5年度事業報告について 事業報告

① 会 議

定 期 総 会 令和5年7月3日

現地専門委員会 令和5年10月4日

② 研究並びに指導

〔立山ルート沿線の緑化についての調査，研究〕

ア. 折谷専門委員

- ・ 室堂平・天狗平・弥陀ヶ原における緑化復元地と歩道沿線の土壌浸食地における植生調査。
- ・ 立山の各標高別気温と地温の年変動調査（美松他で調査・継続）及び方位別の気温分布の調査（7月31日）。
- ・ 外来植物，低地植物の高山帯への侵入状況調査。

イ. 「高山植生復元のための技術開発」（富山森林管理署と共同）

- ・ 令和5年度除伐箇所の事前植生調査実施（7月26日，9月7日 太田専門委員，大宮専門委員）。
- ・ 緑化木の除伐及び裸地の土留作業実施（7月27日 天狗平・9月21日 追分）。
大宮専門委員の指導により，当委員会会員（富山森林管理署，環境省立山管理官事務所，富山県自然保護課，NPO富山県自然保護協会，富山県道路公社，TKK他），ボランティア団体（NPOきんたろう倶楽部，NPO立山自然保護ネットワーク）が参加してミヤマハンノキの除伐作業，除伐した幹枝を使用して弥陀ヶ原裸地の泥炭流失防止のための土留め作業実施。

③ その他 令和5年度年報発行

2) 第Ⅱ号議案 令和6年度事業計画（案）について 事業計画

① 会 議

定 期 総 会 令和6年7月1日

現地専門委員会 令和6年9月上旬予定。

② 研究並びに指導

[立山ルート沿線の緑化についての調査・研究]

ア. 折谷専門委員

- ・室堂平・天狗平・弥陀ヶ原における緑化復元地と歩道沿線の土壌浸食地における植生調査。
- ・立山の各標高別気温と地温の年変動調査（美松で調査・継続）及び方位別の気温分布の調査。
- ・外来植物、低地植物の高山帯への侵入状況調査。

イ. 大宮副委員長，石須専門委員，米澤専門委員，山下専門委員，太田委員長

- ・立山ルート沿線植生復元40年経過後の植生調査。

ウ. 大宮副委員長，石須専門委員，米澤専門委員，山下専門委員，太田委員長

- ・黒部ダム周辺の外来植物侵入状況と立山ルートへの影響調査。

エ. 大宮副委員長，石須専門委員，米澤専門委員，山下専門委員，太田委員長

- ・高山植生復元のための技術開発（富山森林管理署と共同）。

3) 第Ⅲ号議案 役員の改選について

別紙役員名簿（案）

4) 報告事項

令和5年度立山ルート緑化研究委員会年報について

令和6年発行

仕様：A4版，21ページ，1色刷（予定）

作成部数：100部

配布先：当委員会委員，専門委員及び関係先

作成費用：令和6年度予算から充当する

2. 現地専門委員会

日時 令和6年10月4日（金） 9：30～14：00

行程 立山駅～大観台～室堂平（立山センター）～天狗平～立山駅

参加者 [委員長] 太田道人

[副委員長] 大宮徹

[専門委員] 石須秀知，折谷隆志，山下寿之，米澤義則

[委員]（富山森林管理署森林技術指導官）軒端信司，（富山県立山センター所長）松為幸夫，
（富山県道路公社専務理事）岡野博司，（富山県道路公社立山有料道路管理事務所
所長）橋本暁，（富山県道路公社管理事務所）草野皓平，（みくりが池温泉）尾近三郎，
（NPO法人富山県自然保護協会専務理事）山橋貞信

[事務局] 山本嘉宏，城賀津樹

計15名

視察箇所及び概要

① 大観台（環境省による大観台園地駐車場整備箇所（設計変更）の視察）

- ・伐採する木としない木を図面上に落とした資料があればよい。

⇒ 伐採する樹木は1番手前の枯損木1本を想定（伐根含む）。

駐車場の減速・加速車線においては，支障となる枝落としでの対応を検討。

今後内容が固まった段階で地図に落とし込む予定。（環境省）

- ・県道部分の国有林借地図面が有料道路部分（富山県道路公社管理）に比べ古い求積図面（三斜

法)を使用しているため富山森林管理署との手続きの中での正確性は?

⇒ 借地等の対応は、富山森林管理署・富山県立山土木事務所との調整の中で適切なものを基に進める予定。(環境省)

・側溝が開渠だと枯れ枝等が詰まりやすいのでは?

⇒ 現在計画している側溝は暗渠。側溝上までバスが駐車するため自由勾配側溝の上に蓋が付く。(環境省)

・道路管理者である富山県立山土木事務所へのヒアリングは?

⇒ 富山県道路公社と富山森林管理署とは、現時点での設計案をもう少し精査すること(富山県立山土木事務所との調整結果次第)により別途ヒアリングを行う予定。(環境省)

② 国見駐車場(駐車場及び周辺のアライドツメクサ侵入状況視察)

・荒天により中止。

③ 立山センター(立山センター裏のアライドツメクサ侵入状況視察)

・立山自然保護センター事務所で太田委員長から外来植物アライドツメクサについて説明。

・立山センター裏のアライドツメクサ侵入状況視察。

④ 令和6年度ミヤマハンノキ除伐箇所(天狗平・弥陀ヶ原)

・昼食後「レストラン立山まさご」で大宮副委員長からミヤマハンノキ除伐事業について説明。

・現地については荒天のためバス車窓より視察。

令和6年度 立山ルート緑化研究委員会 委員及び専門委員名簿

委 員（順不同）（※は新任）

（R 6. 7 現在）

委 員 長	NPO法人富山県自然保護協会理事長	太田 道人
副委員長	NPO法人富山県自然保護協会副理事長	大宮 徹
委 員	富山森林管理署長	鈴木 修
	環境省中部山岳国立公園立山管理官事務所国立公園管理官	中森 健太
	公立学校共済組合立山保養所支配人	※廣川由多可
	富山県立山荘(株)東洋サービス北陸営業課長	※松田 昌之
	らいちょう温泉雷鳥荘	林 守人
	立山室堂山荘	佐伯 千尋
	みくりが池温泉	尾近 三郎
	天狗平山荘	佐伯 賢輔
	立山黒部貫光株式会社取締役技術環境部長	杉林 義宏
	立山貫光ターミナル株式会社常務取締役	大谷 真一
監 事	富山県自然保護課長	上田 英久
	富山県道路公社事務局長	※岡野 博司
幹 事	立山黒部貫光株式会社技術環境部環境保全課長	山本 嘉宏
	立山黒部貫光株式会社技術環境部環境保全課係長	白石 泰弘
	立山黒部貫光株式会社技術環境部技監	城 賀津樹

参 与

参 与	前NPO法人富山県自然保護協会理事長	川田 邦夫
	立山黒部貫光株式会社代表取締役社長	見角 要

専門委員（五十音順）

（R 6. 7 現在）

魚津埋没林博物館館長	石須 秀知
NPO法人富山県自然保護協会副理事長	大宮 徹
元富山県立大学教授 富山植物資源研究所	折谷 隆志
元（公財）花と緑の銀行中央植物園部栽培展示課長	山下 寿之
元富山森林管理署森林技術指導官	米澤 義則

中部山岳国立公園
令和6年度立山ルート緑化研究委員会年報(VOL.23)

令和7年6月 発行

発行者 立山ルート緑化研究委員会
委員長 太田道人
〒930-8558 富山市桜町1丁目1番36号
立山黒部貫光株式会社内
TEL 076-441-3286
FAX 076-432-8200

編集責任者 大宮 徹

印刷所 株式会社すがの印刷
